

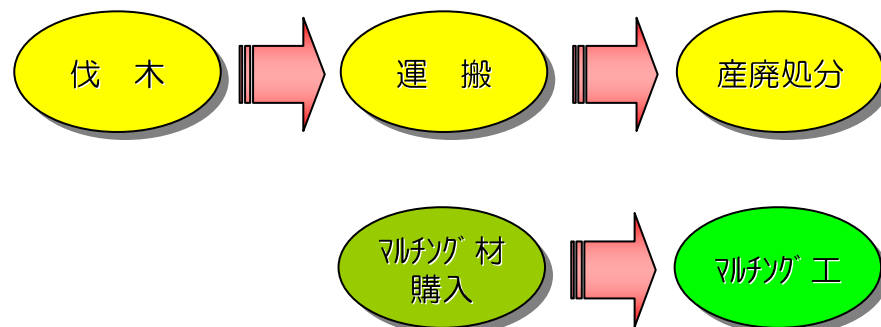
2. 平成20年度のコスト縮減報告

伐採木材の有効活用

伐採木をチップ化し、法面のマルチング材として再利用することで処分費の縮減を図る。

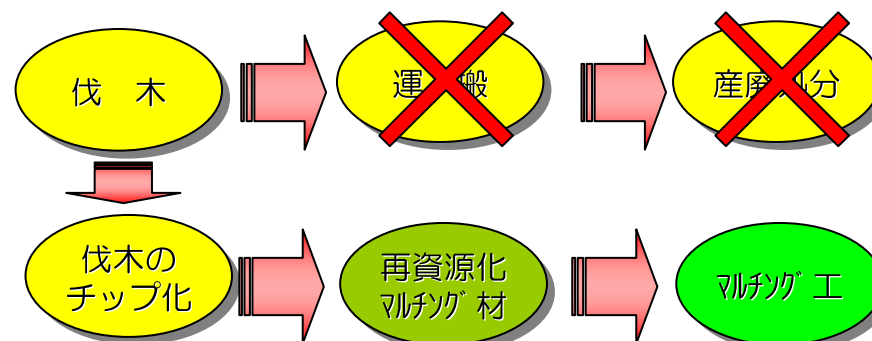
当初計画(H13)

従来作業



変更

伐採材の再利用



志津見ダム

(当初)142百万円 → (変更)37百万円

約105百万円のコスト縮減

74%コスト低減

尾原ダム

(当初)50百万円 → (変更)13百万円

約37百万円のコスト縮減

75%コスト低減



伐木材の粉碎状況



伐木材のチップ化

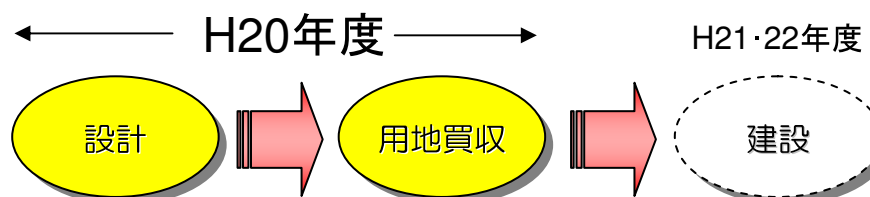


再生植生マルチング材使用状況

管理用宿舎等のとりやめ

ダム管理に必要な職員の宿舎等を他事務所等の宿舎を活用することで宿舎新築費用の削減を図る。

当初計画



変更



設計費（当初）18百万円 → （変更）0百万円

用地費（当初）85百万円 → （変更）0百万円

約103百万円のコスト縮減

（志津見・尾原ダム各51.5百万円）

管理設備関連工事のライフサイクルコスト(尾原ダム)

ダム管理設備工事の入札時に技術提案を求め、ライフサイクルコストの削減を図る。

受変電設備工事

- ・効率の良い主変圧器(500KVA)を採用することにより、損失を35%低減
- ・低燃費な予備発電機原動機(379kw)を採用することにより、燃料消費量を32%低減



変電器損失による年間削減電力料金 72千円
予備発電機原動機の年間削減燃料費 265千円
年間約337千円のコスト縮減

ダム放流制御設備(ダムコン)工事

設備設計で耐久性を求め、ダムコン運用においてかかる維持管理費(ライフサイクルコスト)を40%低減



年間約1,539千円のコスト縮減

※写真は他ダムの事例